

創立60周年記念式典

昭和59年9月19日，経団連会館ホール

田村三郎会長挨拶——創立60周年を迎えて——

(祝典プログラムから転載)



わが国の学問的風土の上に，農芸化学の種子が播かれてから，すでに100年の歳月が流れております。この間，先人たちのたゆみない努力と，産官学にわたる有機的な連繋を通じて，わが国の農芸化学は，第一次から第二次にわたる広範な生物生産の場において，世界に類を見ない独特な学問体系を形成するに至りました。

そして，農芸化学にかかわる科学と技術の発展を志向する人びとが主たる拠り所とするわが日本農芸化学会は，すでに1万名の会員を擁するわが国有数の学会となっており，本年7月1日には，創立60周年の記念すべき日を迎えました。

ご高承のとおり，高度経済成長から安定成長ないし低成長の時代に移行したわが国においては，近年，いわゆ

る技術立国の実現に向けて，独創的な自主技術の開発を積極的に推進すべきことが，各方面で主張されております。このような状況のなかで，とくに広義のバイオサイエンスとバイオテクノロジーの領域において，農芸化学者の活躍が強く期待されていると申して差し支えないでしょう。

私たち日本農芸化学会の全会員は，本日の記念式典を契機に，人類の生存を遠い未来にわたって支える科学技術の確立に向けて，一層の努力を傾けるべく決意を新たにしております。ご臨席の各位におかれましても，本会の活動に対し，かわらぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本農芸化学会会長 田村三郎